

第6回東アジア島嶼海洋文化フォーラム

——海洋文化の共通性——

日 程：2018年12月3日（月）～12月7日（金）

会 場：広東海洋大学（中国広東省湛江市）

参加者：小熊 誠 昆 政明 兪鳴奇

広東海洋大学における 第6回東アジア島嶼海洋文化フォーラム

小熊 誠

2018年の第6回東アジア島嶼海洋フォーラムは、広東海洋大学で開催された。広東海洋大学は、1935年に広東省立の高級水産職業学校として開設され、1960年に暨南大学水産系と合併、改革開放の1979年には湛江水産学院に昇格した。1997年に、湛江農業専科学校と湛江水産学院が合併して湛江海洋大学となり、2001年には湛江気象学校と合併し、2005年に改称して広東海洋大学となった。現在は総合大学だが、海洋研究では長い歴史を持つ大学である。

大学の地理は、広東空港から南西に約400km離れた湛江市にある。湛江は、中国最南端の海洋都市で、19世紀末から1945年までフランスの疎開地があった重要な海岸をめぐる地域である。広東海洋大学は、湛江の都市中心から20kmほど離れた郊外にあり、毎日ホテルから大学までバスで通った。大学の周辺は、ほとんど住宅などはないが、大学の中は学生で賑やかだった。

第1日目の12月4日は、午前中に広東海洋大学に行き、広東海洋大学の代表者と交流をし、その後中国、台湾、韓国、日本の代表者による研究発表が行われた。日本からは、昆先生が「奉納額『絵馬』に見る船乗りの信仰」で発表した。午後は、ホテルに戻って研究発表を続けた。



写真1 広東海洋大学にて

第2日目の発表は、午前中にホテルで研究発表を継続し、午後から再び広東海洋大学に行って、そこで学生の発表を聞いた。広東海洋大学の学生代表1名の他に、浙江海洋大学の学生と台湾海洋大学の学生2名が発表した。1人10分間の発表ではあったが、具体的な事例を踏まえて有益な発表であった。発表終了後、広東海洋大学の水生生物博物館を見学した。大変多くの水生生物の標本があり、1時間の予定時間をたっぷり見学した。



写真2 雷州半島特有の石獅子

3日目の12月6日は、湛江市の最も南にある徐聞県までバスで見学に行った。中国における大陸側の最南端で、そこからフェリーに乗れば20 kmほどですぐに海南島の海口に着く。海を西に行けば、数100 kmでベトナムだ。そこには、かつての海のシルクロード出発点としての、徐聞城がある。



写真3 中国陸上最南端の岬から南の海を見る

中国の南の南で、中国と東アジアだけでなく、中国と東南アジアの歴史的な関係に思いを馳せることができた。



写真4 海上シルクロードの文化地理座標（湛江徐聞古港）